

2019年度 経営学部卒業時アンケート 択一回答のみ

調査対象：2019年度3月卒業生 485名

調査実施期間：2020年3月3日～2020年3月31日

回答者数：305名

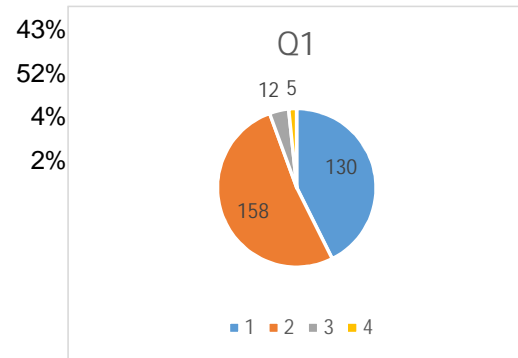
回答率：62.9%

以下の事項について、入学後の総合的な満足度をお答えください。

Q1

学部の専門分野[講義科目]に関わる教育

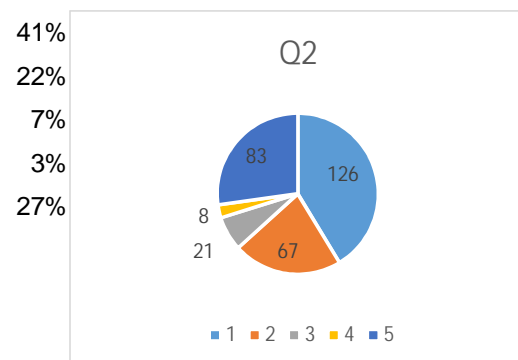
1. 満足	130
2. どちらかといえば満足	158
3. どちらかといえば不満	12
4. 不満	5
計	305



Q2

ゼミ

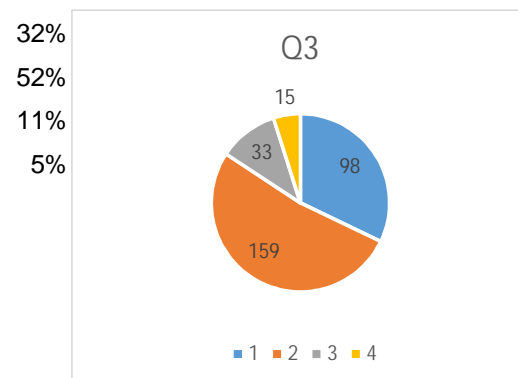
1. 満足	126
2. どちらかといえば満足	67
3. どちらかといえば不満	21
4. 不満	8
5. 未所属	83
計	305



Q3

就職活動支援

1. 満足	98
2. どちらかといえば満足	159
3. どちらかといえば不満	33
4. 不満	15
計	305



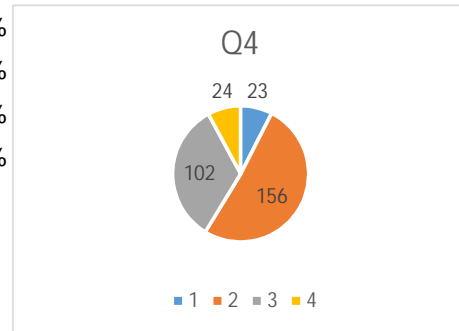
Q4

次にあげる能力について、大学入学時と比べてどの程度身についたと思いますか？

教養と外国語について

1. かなり身についた	23
2. ある程度身についた	156
3. あまり身につかなかった	102
4. 全く身につかなかった	24
計	305

8%
51%
33%
8%

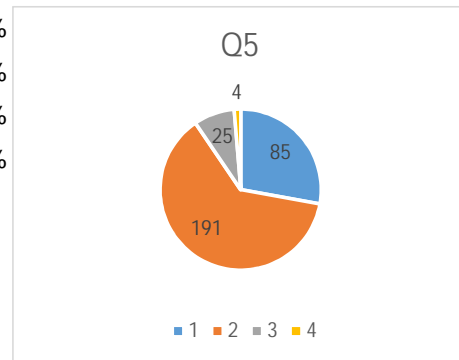


Q5

経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識 [講義科目]

1. かなり身についた	85
2. ある程度身についた	191
3. あまり身につかなかった	25
4. 全く身につかなかった	4
計	305

28%
63%
8%
1%

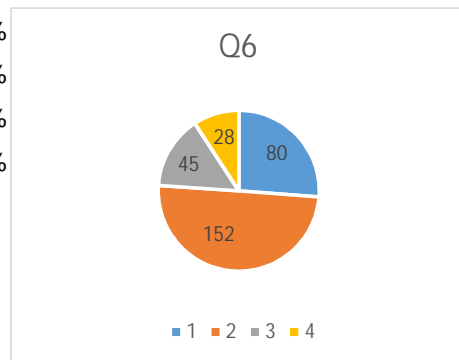


Q6

現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力 [ゼミ]

1. かなり身についた	80
2. ある程度身についた	152
3. あまり身につかなかった	45
4. 全く身につかなかった。	28
計	305

26%
50%
15%
9%



●2019年度 経営学部卒業生アンケート

2019年度の経営学部卒業生アンケートについてその概要と概括的な考察を試みていきたい。

2019年度の経営学部卒業生アンケートでは、まずは入学後の総合的な満足度として、学部の専門分野[講義科目]に関わる教育(Q1)、ゼミ(Q2)、就職活動支援(Q3)の各事項における入学の総合的な満足度についての調査結果をみてみたい(有効回答数305人)。

Q1 学部の専門分野[講義科目]に関わる教育

当該項目では、「満足」が43%(130人)、「どちらかといえば満足」が52%(158人)、「どちらかといえば不満」が4%(12人)、「不満」が2%(5人)という結果となった。95%(288人)が「満足」「どちらかといえば満足」であり、極めて当該項目での満足度は高いといえる。

Q2 ゼミ

当該項目では、「満足」が41%(126人)、「どちらかといえば満足」が22%(67人)、「どちらかといえば不満」が7%(21人)、「不満」が3%(8人)、「未所属」が27%(83人)という結果となった。ゼミ教育については、回答者の27%がゼミ未所属であり、ゼミ所属学生に限定したとき、「満足」は57%、「どちらかといえば満足」が30%となり、総じて満足して卒業したと考えられる。未所属学生が4年次だけゼミ未所属なのか、2年次から卒業までゼミ未所属なのかが不明であるが、2018年度の卒業生(ゼミ未所属30%)よりは若干改善したものの、ゼミ未所属を解消していくことが今後の取り組むべき課題といえる。

Q3 就職活動支援

当該項目では、「満足」が32%(98人)、「どちらかといえば満足」が52%(159人)、「どちらかといえば不満」が11%(33人)、「不満」が5%(15人)という結果となった。84%(257人)が「満足」「どちらかといえば満足」であり、総じて満足度は高いといえる。しかしながら、「不満」割合が16%いることや、「満足」よりも「どちらかといえば満足」が多いことから、まだまだ改善余地は多いように感じる。

次に、「教養と外国語」、「経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識」、「現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力」の各項目において、大学入学時と比べてどの程度身についたと思うかについての調査結果をみてみたい。

Q4 教養と外国語

当該項目では、「かなり身についた」が8%(23人)、「ある程度身についた」が51%(156人)、「あまり身につかなかった」が33%(102人)、「全く身につかなかった」が8%(24人)という結果になった。総じて「身につかなかった」割合が大きいこともあり、さらなる取り組みが必要であると考えられる。

Q5 経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識[講義科目]

当該項目では、「かなり身についた」が28%(85人)、「ある程度身についた」が63%(191人)、「あまり身につかなかった」が8%(25人)、「全く身につかなかった」が1%(4人)という結果になった。「身についた」割合が91%あり、十分な成果が得られたと考えられる。

Q6 現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力[ゼミ]

当該項目では、「かなり身についた」が26%(80人)、「ある程度身についた」が50%(152人)、「あまり身につかなかった」が15%(45人)、「全く身につかなかった」が9%(28人)という結果になった。「身についた」割合が76%ととなり、ゼミなどによりある程度の成果が見られたと考えられる。

上記のように、2019年度の卒業生の満足度及び達成度に関する卒業時の意識としては、総じて高い評価が得られているといえる。今後の課題としては、教養と外国語に対する達成度をあげることや、それ以外でも高評価に満足することなく、高評価を維持しつつも、さらなる向上に努力を傾注していくことが肝要であろう。